

2014年3月期 第3四半期決算概要



2014年1月31日
株式会社プロトコーポレーション (4298)

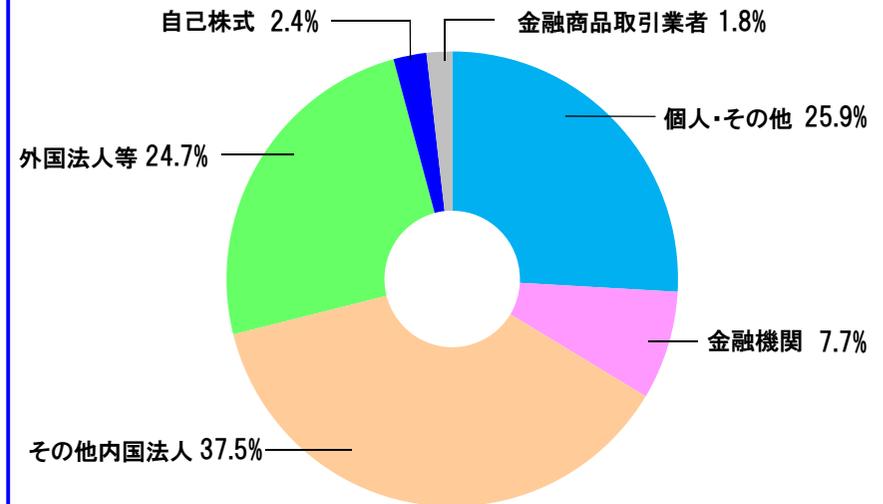
連結主要データ

発行済株式総数(百万株)		20.9
時価総額(億円)	※2013年12月末	307.8
1株当たり年間配当(円)	※2014年3月期予想	37.5
1株当たり当期純利益(円)	※2014年3月期予想	126.65
1株当たり純資産(円)	※2013年3月期実績	1,154.20
ROE(%)当期純利益ベース	※2013年3月期実績	9.9
ROA(%)経常利益ベース	※2013年3月期実績	13.8
自己資本比率(%)	※2013年3月期実績	68.2
潜在株式数		-

大株主(上位5名)

	(千株)
1) 株式会社夢現	6,807 (32.50%)
2) JPMCC Client Safekeeping Account	1,186 (5.66%)
3) 横山博一	840 (4.01%)
4) The Chase Manhattan Bank, N.A. London Secs Lending Omnibus Account	568 (2.71%)
5) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	511 (2.44%)

株式分布状況



(2013年12月31日現在)

連結損益計算書 (1)



(単位:百万円)

	2012年4-12月期		2013年4-12月期				前期対比		計画対比	
	実績 (A)	売上比	計画 (B)	売上比	実績 (C)	売上比	(C) - (A)	%	(C) - (B)	%
売上高	28,619	100.0%	41,858	100.0%	① 41,520	100.0%	12,900	145.1%	△ 337	99.2%
売上原価	15,130	52.9%	25,750	61.5%	② 25,644	61.8%	10,513	169.5%	△ 105	99.6%
売上総利益	13,489	47.1%	16,107	38.5%	15,875	38.2%	2,386	117.7%	△ 231	98.6%
販売費及び一般管理費	9,302	32.5%	12,581	30.1%	③ 12,254	29.5%	2,951	131.7%	△ 327	97.4%
EBITDA	4,886	17.1%	4,880	11.7%	4,886	11.8%	△ 0	100.0%	6	100.1%
営業利益	4,186	14.6%	3,526	8.4%	3,621	8.7%	△ 564	86.5%	95	102.7%
経常利益	4,317	15.1%	3,659	8.7%	3,878	9.3%	△ 438	89.8%	218	106.0%
四半期純利益	2,410	8.4%	1,964	4.7%	2,025	4.9%	△ 385	84.0%	61	103.1%

	2012年4-12月期		2013年4-12月期				前期対比		計画対比	
	実績 (A)	売上比	計画 (B)	売上比	実績 (C)	売上比	(C) - (A)	%	(C) - (B)	%
販売費及び一般管理費	9,302	32.5%	12,581	30.1%	12,254	29.5%	2,951	131.7%	△ 327	97.4%
人件費	4,433	15.5%	5,635	13.5%	5,312	12.8%	878	119.8%	△ 323	94.3%
広告宣伝費関連	1,752	6.1%	2,180	4.5%	2,209	5.3%	457	126.1%	28	101.3%
その他経費	3,116	10.9%	4,764	11.4%	4,732	11.4%	1,615	151.8%	△ 32	99.3%
社員数	1,069	-	1,369	-	1,322	-	253	123.7%	△ 47	96.6%

* EBITDAは、「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出しております。

Point ① 売上高 主に自動車関連情報において、輸入タイヤ販売を手掛ける㈱オートウェイの子会社化(2013年4月)及び㈱キングスオートの中古車輸出台数が増加したことなどから、前年同期対比はグループ全体で12,900百万円の増収(前年同期対比145.1%)となりました。また、計画対比では、主に㈱キングスオートの中古車輸出台数が計画を上回ったものの、㈱オートウェイのタイヤ販売数量が計画を下回ったことなどから、グループ全体で99.2%となりました。

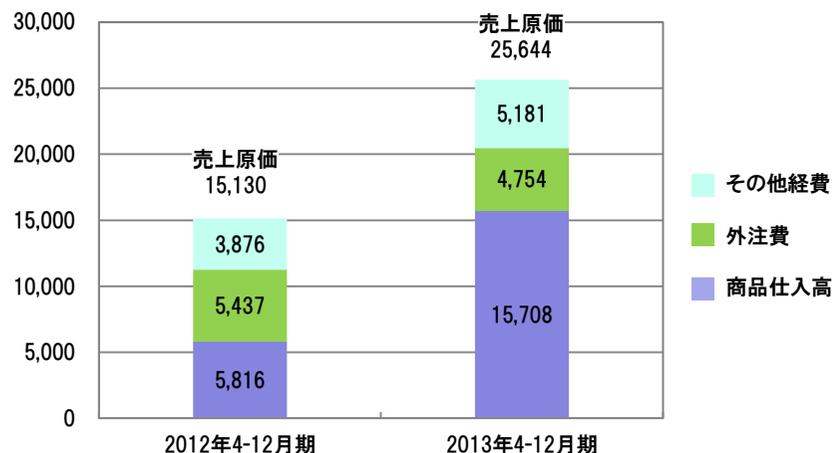
Point ② 売上原価 主に㈱オートウェイの子会社化及び㈱キングスオートの中古車輸出台数が増加したことに伴い、それぞれ商品仕入高等が増加し、前年同期対比は169.5%(原価率:8.9ポイント上昇)となりました。また、計画対比においては主に㈱オートウェイのタイヤ販売数量が計画を下回ったことなどから、グループ全体で99.6%となりました。

Point ③ 販売費及び一般管理費 主に連結子会社の増加に伴い、人件費及びその他経費が増加したことから、前年同期対比は131.7%(販売管理費率:3.0ポイント低下)となりました。また、計画対比では、主に㈱プロトコーポレーションにおける人件費が計画を下回ったことから、グループ全体で97.4%となりました。

2013年4-12月期 業績概況

売上原価の推移

(単位:百万円)



売上原価

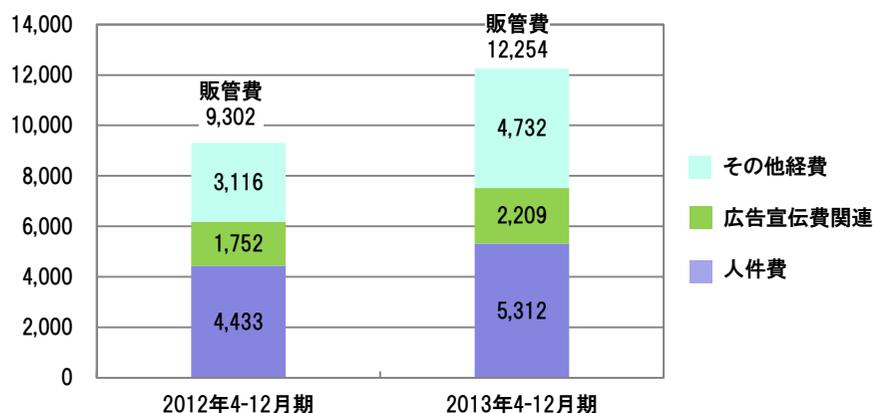
商品仕入高については、主に㈱オートウェイ(6,892百万円増)及び㈱キングスオート(2,536百万円増)における商品仕入高が増加した結果、グループ全体で9,892百万円の増加(前年同期対比270.1%)となりました。

外注費については、主に㈱プロトコーポレーションにおけるインターネット広告代理事業の売上高が減少したことに伴い、グループ全体で682百万円の減少(前年同期対比87.4%)となりました。

その他経費については、主に㈱オートウェイならびに㈱キングスオートの運賃が増加したことをはじめ、㈱プロトメディカルケアによる㈱フジヤマサービスの子会社化(2013年4月)に伴う社員数の増加、Goo鑑定の鑑定台数増加に伴う㈱カークレドの社員数の増加、㈱プロトデータセンターの社員数の増加等により、グループ全体で1,304百万円の増加(前年同期対比133.7%)となりました。

販売費及び一般管理費の推移

(単位:百万円)



販売費及び一般管理費

人件費については、主に㈱オートウェイの子会社化に伴う社員数の増加及び㈱プロトコーポレーションの社員数の増加に伴い、グループ全体で878百万円の増加(前年同期対比119.8%)となりました。

広告宣伝費関連については、㈱オートウェイの広告宣伝関連費用が452百万円発生したことから、グループ全体で457百万円の増加(前年同期対比126.1%)となりました。

その他経費については、㈱オートウェイの子会社化及び台湾寶路多における事業譲受けに伴い、主にのれん償却額をはじめ、減価償却費、支払手数料等が増加したことから、グループ全体で1,615百万円の増加(前年同期対比151.8%)となりました。

セグメント別事業概況 (1)



■ 売上高

(単位:百万円)

	2012年4-12月期		2013年4-12月期			
	実績 (A)	構成比	計画 (B)	構成比	実績 (C)	構成比
自動車関連情報	25,010	87.4%	37,551	89.7%	38,022	91.6%
情報登録・掲載料	15,341	53.6%	15,615	37.3%	15,492	37.3%
情報提供料	9,668	33.8%	21,935	52.4%	22,529	54.3%
生活関連情報	3,082	10.8%	3,468	8.3%	2,667	6.4%
不動産	124	0.4%	113	0.3%	128	0.3%
その他	402	1.4%	725	1.7%	701	1.7%
合計	28,619	100.0%	41,858	100.0%	41,520	100.0%

前期対比		計画対比	
(C) - (A)	%	(C) - (B)	%
13,012	152.0%	471	101.3%
151	101.0%	△ 123	99.2%
12,861	233.0%	594	102.7%
△ 414	86.6%	△ 800	76.9%
3	102.8%	15	113.4%
299	174.3%	△ 23	96.7%
12,900	145.1%	△ 337	99.2%

- 1) 情報登録・掲載料 情報誌・ネットメディアへの広告掲載等
 2) 情報提供料 情報誌販売、コンテンツ提供、中古車輸出支援サービス、EC(輸入タイヤ・バイクパーツ販売)等

■ 営業利益

(単位:百万円)

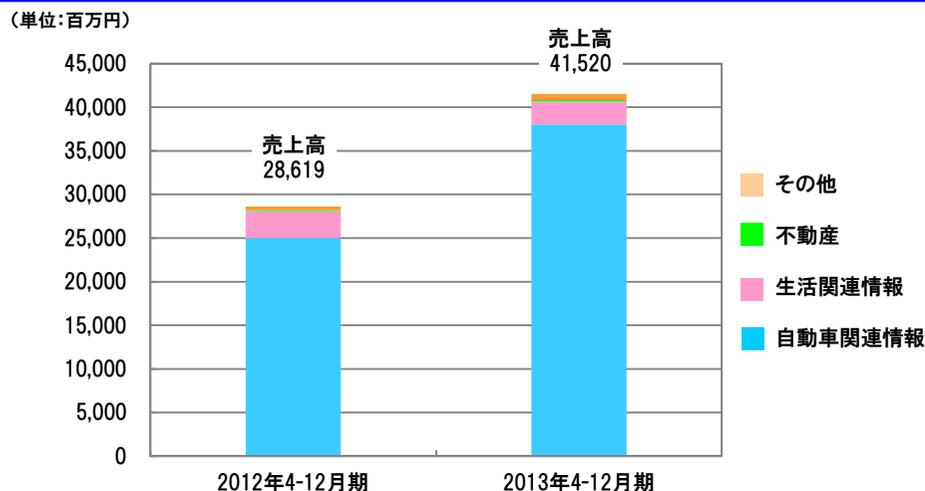
	2012年4-12月期		2013年4-12月期			
	実績 (A)	利益率	計画 (B)	利益率	実績 (C)	利益率
自動車関連情報	5,439	21.7%	4,753	12.7%	4,785	12.6%
生活関連情報	143	4.6%	186	5.4%	172	6.5%
不動産	69	55.4%	59	52.3%	67	52.8%
その他	△ 249	-	△ 90	-	△ 143	-
管理部門	△ 1,215	-	△ 1,382	-	△ 1,260	-
合計	4,186	14.6%	3,526	8.4%	3,621	8.7%

前期対比		計画対比	
(C) - (A)	%	(C) - (B)	%
△ 654	88.0%	31	100.7%
29	120.5%	△ 14	92.5%
△ 1	97.9%	8	114.5%
106	-	△ 52	-
△ 44	-	122	-
△ 564	86.5%	95	102.7%

セグメント別事業概況 (2)



セグメント別 売上高の推移



自動車関連情報

情報誌事業については、ほぼ前年並みの水準(前年同期対比100.2%)に留まったものの、IT事業については、主に㈱オートウェイの子会社化により、EC売上(輸入タイヤ販売)が増加したことに加え、㈱プロトコーポレーションならびに㈱プロトriosにおいて、IT商品の拡販を推進したことにより、9,816百万円の増収(同215.7%)となりました。なお、その他事業については、中古車輸出事業を手掛ける㈱キングスオートとGoo鑑定の拡販が順調に推移したことにより、3,175百万円の増収(同159.5%)となり、自動車関連情報全体の売上高は13,012百万円の増収(同152.0%)となりました。

また、営業利益については、主に㈱プロトコーポレーションにおける人件費の増加をはじめ、海外子会社における先行投資負担の発生により、654百万円の減益(同88.0%)となりました。

生活関連情報

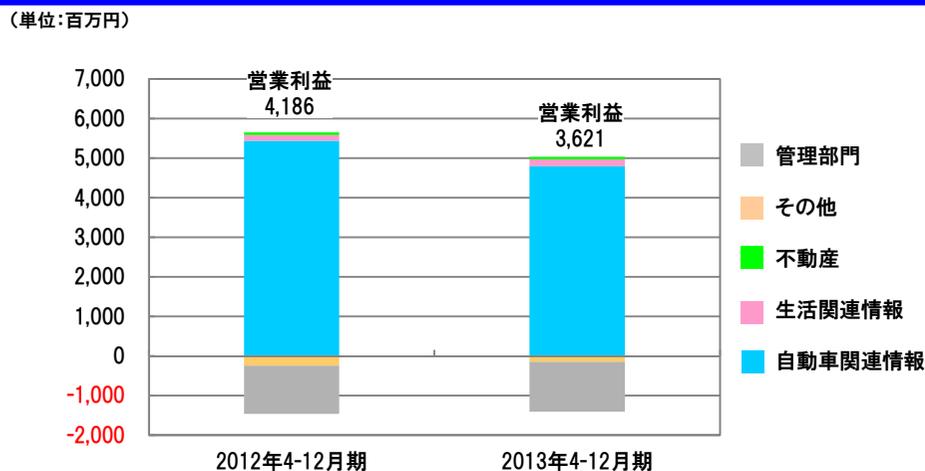
㈱プロトメディカルケアについては、医療・介護・福祉分野における広告事業ならびに介護用品の通販事業が堅調に推移するとともに、㈱フジヤマサービス等の子会社化により、福祉用具のレンタルサービス事業等が増収増益に寄与いたしました。しかしながら、主に㈱プロトコーポレーションにおいて、インターネット広告代理事業が943百万円の減収となったことから、生活関連情報全体の売上高は414百万円の減収(前年同期対比86.6%)となりました。

また、営業利益については、㈱プロトメディカルケアが堅調に推移したものの、㈱プロトデータセンターにおいて、不動産情報事業における人件費及び認知度向上を目的とした広告宣伝費等が増加したことから、29百万円の増益(同120.5%)に留まりました。

その他

主に㈱プロトデータセンターにおけるBPO事業の受注が拡大したことから、売上高は299百万円の増収(前年同期対比174.3%)となりました。また、営業利益については、ソーシャルゲーム事業に係る営業損益が108百万円の損失となったことなどから、143百万円の損失(前年同期は249百万円の損失)となりました。なお、ソーシャルゲーム事業は2013年12月末をもって撤退しました。

セグメント別 営業利益の推移

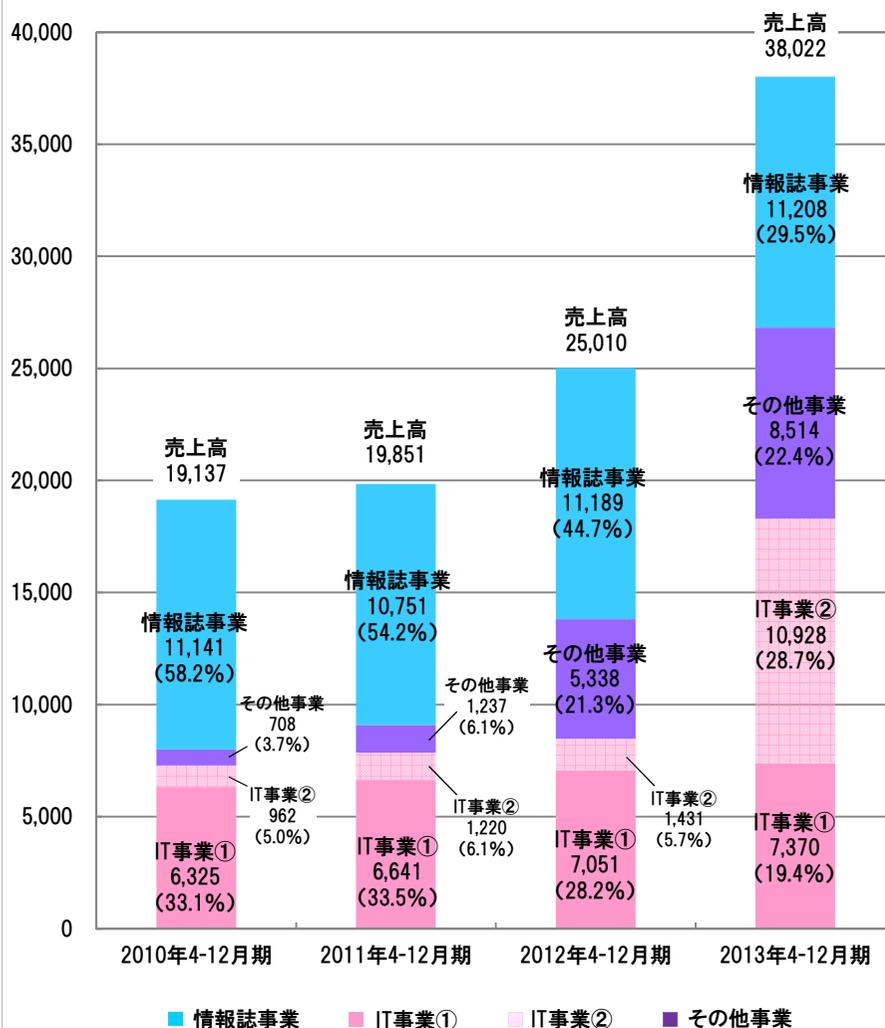


自動車関連情報の事業概況 (1)



自動車関連情報:商品区分別売上高の推移

(単位:百万円) ※カッコ内は構成比



情報誌事業

当期においては、引き続き、Goo鑑定の拡販を推進し、Gooシリーズの取引社数及び広告ページ数の拡大を図ってまいりました。また、11月からは、Goo-netのバックグラウンドシステムである「MOTOR GATE」のリプレイス営業を推進してまいりました。

更に台湾寶路多股份有限公司において、2013年1月に事業を譲り受けた自動車情報メディア事業が寄与したことなどから、情報誌事業全体の売上高は19百万円の増収(前年同期対比100.2%)となりました。

IT事業① (Goo-net等のオプション商品、BtoBデータサービス等)

Gooシリーズに係るインターネット関連商品の拡販を推進するとともに、(株)プロトリオスにおける業務支援システムの拡販などにより、IT事業①の売上高は319百万円の増収(前年同期対比104.5%)となりました。

IT事業② (EC)

輸入タイヤ販売を手掛ける(株)オートウェイの子会社化に加え、(株)バイクプロスにおいてバイク用品・パーツのEC事業の拡大に努めた結果、IT事業②の売上高は9,497百万円の増収(前年同期対比763.6%)となりました。

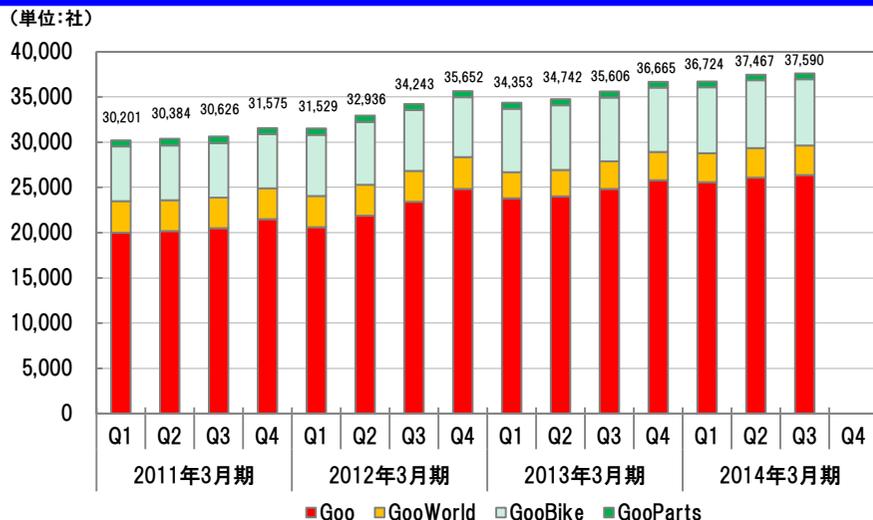
その他事業 (Goo鑑定・中古車輸出支援サービス等)

(株)キングスオートの中古車輸出事業が好調に推移したことに加え、Gooシリーズの取引先に対してGoo鑑定の積極的な拡販を推進し、鑑定台数が増加した結果、その他事業の売上高は3,175百万円の増収(前年同期対比159.5%)となりました。

自動車関連情報の事業概況 (2)



Gooシリーズ 四半期累計取引社数の推移

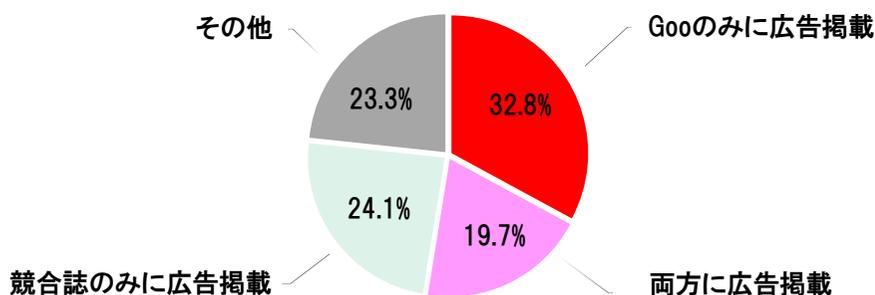


Gooシリーズ全体の第3四半期累計(4-12月累計)取引社数は前年同期対比106.8%と増加いたしました。

また、第3四半期累計期間(4-12月)における1ヶ月あたりの平均取引単価については、小規模販売店の増加等が影響した結果、前年同期対比96.6%となりました。

なお、Goo鑑定加盟店数は2013年12月末時点で6,860IDとなりました。

マーケットシェアの状況 (競合比較)



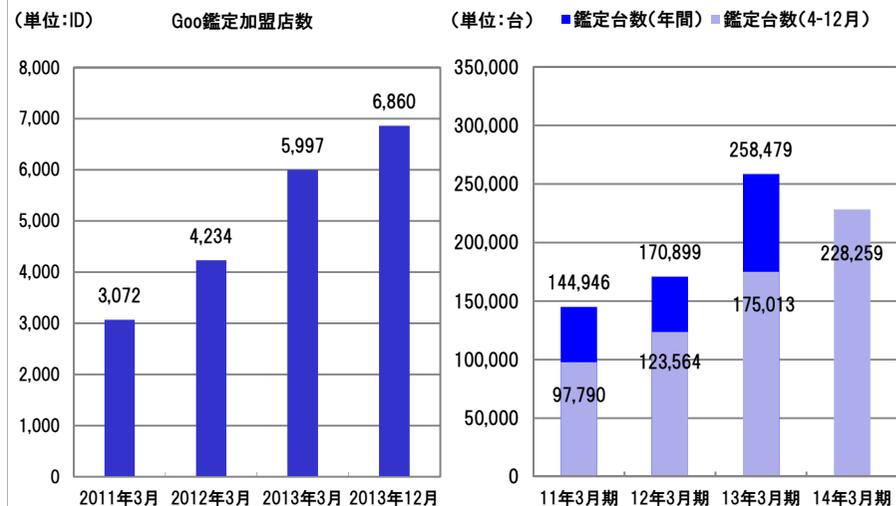
* 競合誌：カーセンサー（但し、四国はMjマガジン、沖縄はクロスロード）

* 数値は全エリアを対象として集計しております。

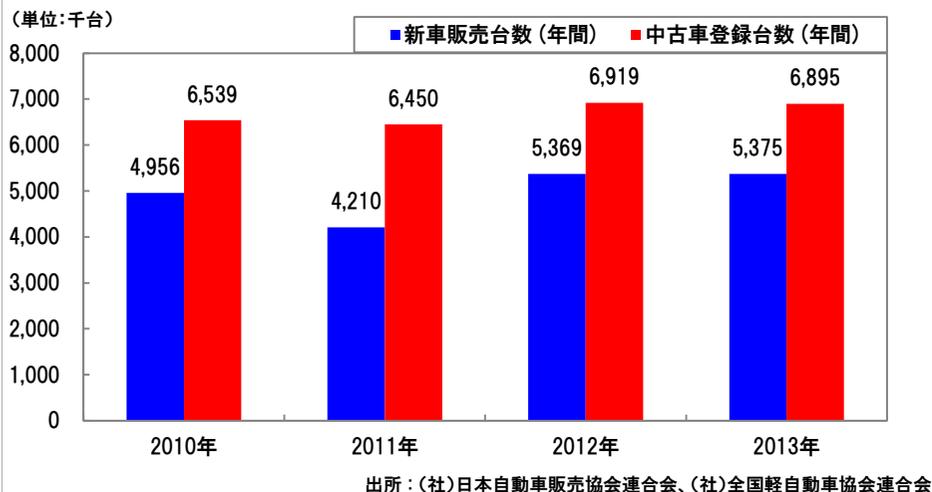
* 取引社数の集計基準：情報誌に広告を掲載した中古車販売店数

(2013年12月時点・当社調べ)

Goo鑑定加盟店数・鑑定台数の推移



新車販売台数・中古車登録台数の推移(暦年ベース)



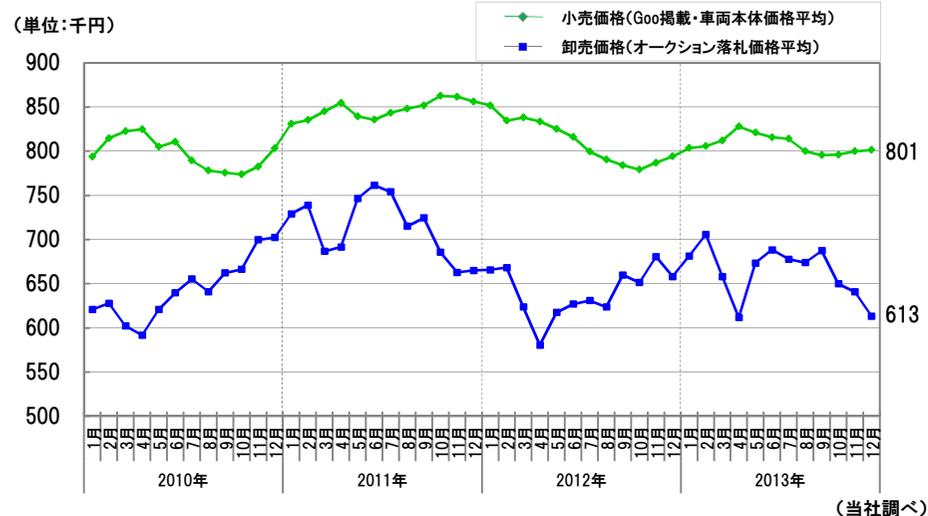
新車販売台数

2013年(1-12月累計)の新車販売台数は537万台となりました。
(前年同期対比100.1%)

中古車登録台数

2013年(1-12月累計)の中古車登録台数は689万台となりました。
(前年同期対比99.7%)

中古車小売・卸売平均価格の推移



中古車の小売・卸売平均価格の推移

エコカー補助金の終了後、小売平均価格は80万円前後で推移しております。
また、卸売平均価格については、2013年9月以降、下落傾向が続いております。

【参考:エコカー補助金】

1.第1期:エコカー補助金

2009年4月10日～2010年9月7日 : 予算枠5,837億円、スクラップインセンティブあり

2.第2期:エコカー補助金

2011年12月20日～2012年9月21日: 予算枠3,000億円、スクラップインセンティブなし

連結貸借対照表



(単位:百万円)

	2013年3月期 (期末)		2014年3月期 (第3四半期末)		増減 (B) - (A)
	(A)	構成比	(B)	構成比	
流動資産	20,686	59.4%	23,115	52.4%	① 2,429
固定資産	14,155	40.6%	20,968	47.6%	② 6,813
流動負債	8,578	24.6%	13,255	30.1%	③ 4,677
固定負債	2,514	7.2%	5,863	13.3%	④ 3,349
純資産	23,748	68.2%	24,964	56.6%	1,216
総資産	34,841	-	44,084	-	9,242

Point ① 流動資産の増加 (2013年3月期 期末対比 2,429百万円増)

主に㈱オートウェイの子会社化に伴う株式取得による支払いが発生したことから現金及び預金が減少したものの、同社の棚卸資産等が増加したことにより、前連結会計年度末と比較し2,429百万円増加しております。

Point ② 固定資産の増加 (2013年3月期 期末対比 6,813百万円増)

主に㈱オートウェイの子会社化に伴うのれんを計上したこと、同社の土地・建物が増加したことなどから、前連結会計年度末と比較して6,813百万円増加しております。

Point ③ 流動負債の増加 (2013年3月期 期末対比 4,677百万円増)

主に㈱オートウェイの子会社化に伴い、短期借入金等が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比較して4,677百万円増加しております。

Point ④ 固定負債の増加 (2013年3月期 期末対比 3,349百万円増)

㈱オートウェイの子会社化に伴い、長期借入金等が増加したことから、前連結会計年度末と比較して3,349百万円増加しております。

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位:百万円)

	2012年4-12月期	2013年4-12月期	増減	(参考) 2013年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,207	① 2,519	△ 688	2,917
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 603	② △ 5,281	△ 4,678	△ 1,203
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,346	③ △ 1,370	△ 24	1,187
現金及び現金同等物の期末残高	12,830	10,670	△ 2,160	14,640
投資額(有形・無形固定資産*)	2,172	5,497	3,324	2,831
減価償却費(有形・無形固定資産)	290	596	305	404
のれん償却額	409	668	258	546

* 投資額には、有形・無形固定資産取得額、及びのれんを含みます。

Point ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益3,736百万円を計上したものの、主に(株)オートウェイの棚卸資産が増加したことと、法人税等の支払いが発生したことなどにより、2,519百万円の収入に留まりました。

Point ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に(株)オートウェイなどの子会社化に伴う株式取得による支出が3,215百万円、台湾寶路多股份有限公司における事業の譲受けに伴う支出が606百万円発生したことなどにより、5,281百万円の支出となりました。

Point ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に配当金の支払による支出が754百万円、自己株式の取得による支出が199百万円、借入金の返済が発生したことなどにより、1,370百万円の支出となりました。

参考: 四半期連結業績推移



(単位: 百万円)

	2012年3月期 (実績)					2013年3月期 (実績)					2014年3月期 (実績)		
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	合計	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	合計	第1Q	第2Q	第3Q
売上高	7,223	7,501	7,975	7,880	30,582	9,599	9,600	9,420	9,667	38,287	13,808	13,915	13,796
売上原価	3,010	3,270	3,500	3,502	13,283	5,007	5,093	5,029	5,505	20,636	8,459	8,717	8,468
売上総利益	4,213	4,230	4,475	4,378	17,298	4,591	4,507	4,390	4,161	17,650	5,349	5,198	5,328
販売費及び一般管理費	2,810	2,758	2,770	3,112	11,451	3,006	3,124	3,171	4,138	13,440	4,022	4,068	4,163
営業利益	1,403	1,472	1,705	1,265	5,846	1,585	1,382	1,218	23	4,209	1,326	1,130	1,165
経常利益	1,437	1,458	1,739	1,367	6,002	1,602	1,450	1,263	54	4,371	1,398	1,213	1,266
四半期(当期)純利益	827	815	945	687	3,275	1,082	657	670	△ 120	2,290	761	551	712

※ 売上原価は、返品調整引当金戻入額及び繰入額を加味した数値であります。

	2012年3月期 (実績)					2013年3月期 (実績)					2014年3月期 (実績)		
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	合計	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	合計	第1Q	第2Q	第3Q
売上高	7,223	7,501	7,975	7,880	30,582	9,599	9,600	9,420	9,667	38,287	13,808	13,915	13,796
自動車関連情報	6,492	6,506	6,852	6,852	26,704	8,538	8,256	8,214	8,677	33,687	12,723	12,680	12,618
情報登録・掲載料	4,756	4,826	5,166	5,082	19,830	4,934	5,082	5,324	5,072	20,413	5,038	5,192	5,261
情報提供料	1,736	1,680	1,686	1,770	6,873	3,604	3,174	2,890	3,605	13,273	7,685	7,488	7,356
生活関連情報	640	907	1,010	911	3,470	925	1,175	980	755	3,837	828	942	896
不動産	41	41	42	41	166	42	40	41	39	163	41	43	43
その他	49	45	70	75	240	91	127	183	195	597	215	248	237
営業利益	1,403	1,472	1,705	1,265	5,846	1,585	1,382	1,218	23	4,209	1,326	1,130	1,165
自動車関連情報	1,820	1,823	2,045	1,583	7,272	1,932	1,787	1,719	476	5,916	1,752	1,473	1,559
生活関連情報	27	40	73	86	228	52	58	32	△ 12	131	37	81	52
不動産	20	19	21	22	83	24	21	23	16	85	23	22	21
その他	△ 38	△ 48	△ 34	△ 27	△ 149	△ 55	△ 73	△ 121	△ 73	△ 323	△ 58	△ 40	△ 45
管理部門	△ 427	△ 362	△ 400	△ 399	△ 1,589	△ 369	△ 411	△ 435	△ 383	△ 1,599	△ 428	△ 407	△ 424

参考:EBITDA・調整後当期純利益推移



(単位:百万円)

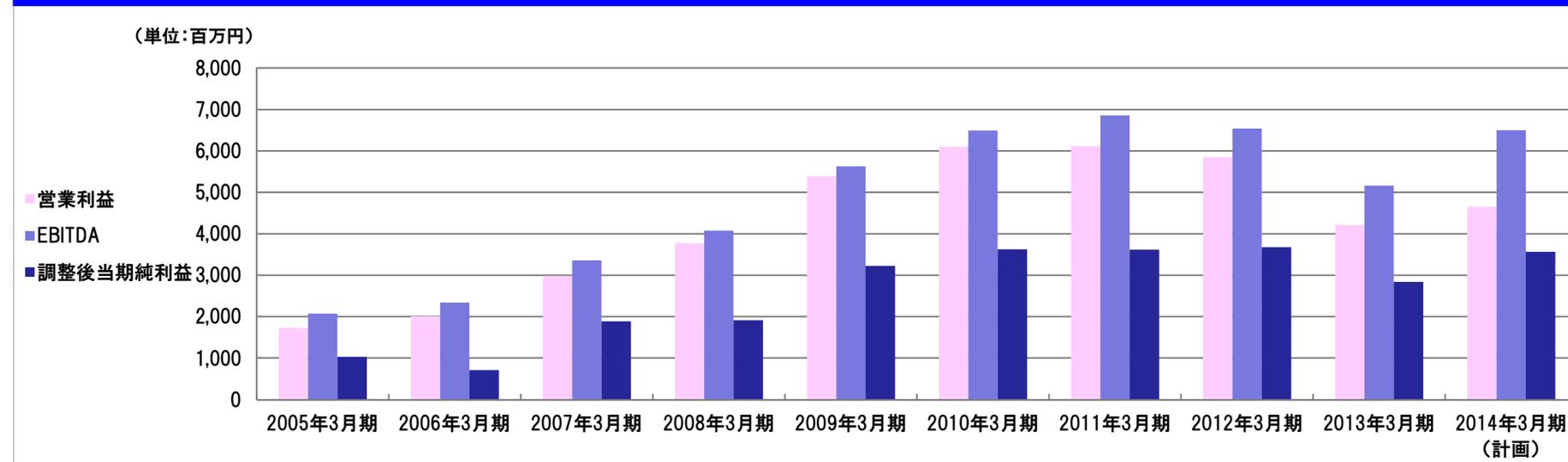
	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期 (計画)*3
売上高	19,778	19,952	21,238	22,893	23,657	25,682	28,779	30,582	38,287	56,760
営業利益	1,725	2,010	2,988	3,771	5,384	6,098	6,111	5,846	4,209	4,650
当期純利益	917	598	1,766	1,838	3,187	3,529	3,197	3,275	2,290	2,606
EBITDA*1	2,075	2,337	3,360	4,078	5,628	6,490	6,856	6,540	5,161	6,499
調整後当期純利益*2	1,030	707	1,890	1,915	3,223	3,621	3,620	3,680	2,836	3,563
減価償却費	237	217	247	230	207	299	322	288	404	891
のれん償却額	112	109	124	77	36	91	422	405	546	957

*1 EBITDAは、「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出しております。

*2 調整後当期純利益は、「当期純利益+のれん償却額」にて算出しております。

*3 2014年3月期の業績予想は期初予想から変更ありません。

営業利益・EBITDA・調整後当期純利益の年次推移



* 業績見通しは、2013年5月10日公表の数値であります。

補足資料

会社概要



社名
創業
設立
資本金
発行済株式総数
本社
支社
事業年度末
社員数
上場取引所
連結子会社

株式会社プロトコーポレーション
1977年10月1日
1979年6月1日
1,824,620,000円（2013年12月31日現在）
20,940,000株（2013年12月31日現在）
〒460-0006 名古屋市中区葵一丁目23番14号
〒113-0033 東京都文京区本郷二丁目22番2号
札幌、仙台、高崎、東京、長野、浜松、名古屋、金沢、大阪、広島、松山、福岡、熊本
（全国58拠点）
3月31日
連結：1,322名（2013年12月31日現在）
単体：700名（2013年12月31日現在）
東京証券取引所JASDAQスタンダード（2001年9月12日 上場）



月刊中古車通信 1977年創刊

1.株式会社プロトリオス	【2002年10月子会社化】	（議決権所有割合：直接 100%）
2.株式会社プロトデータセンター	【2007年 4月設立】	（議決権所有割合：直接 100%）
3.株式会社プロトメディカルケア	【2009年10月子会社化】	（議決権所有割合：直接 100%）
4.株式会社バイクプロス	【2010年 4月子会社化】	（議決権所有割合：直接 100%）
5.株式会社カークレド	【2012年 2月設立】	（議決権所有割合：直接 100%）
6.株式会社キングスオート	【2012年 4月子会社化】	（議決権所有割合：直接 100%）
7.株式会社オートウェイ	【2013年 4月子会社化】	（議決権所有割合：直接 100%）
8.株式会社フジヤマサービス	【2013年 4月子会社化】	（議決権所有割合：間接 100%）
9.PROTO MALAYSIA Sdn. Bhd.	【2011年 9月子会社化】	（議決権所有割合：直接 100%）
10.MTM Interactive Sdn. Bhd. ※清算手続き中	【2011年 9月子会社化】	（議決権所有割合：間接 100%）
11.SMT Media Pte. Ltd.	【2011年 9月子会社化】	（議決権所有割合：間接 100%）
12.台湾寶路多股份有限公司	【2011年12月設立】	（議決権所有割合：直接 100%）
13.PROTO SINGAPORE Pte. Ltd. ※清算手続き中	【2012年 5月設立】	（議決権所有割合：直接 100%）
14.PT. PROTO INDONESIA （2014年1月1日現在）	【2012年12月設立】	（議決権所有割合：直接 75.0%、間接 25.0%）

中古車の流通フローと当社グループの主な商品・サービス



■ 中古車流通の上流から下流までを網羅し、ニーズに即した商品・サービスの開発・提供を推進

事業領域①

売りたい人



買取 70万台 下取り 210万台 下取り 40万台

リース会社
(リースアップ車両)

中古車買取専門店

新車ディーラー

出品 50万台 出品 60万台 出品 130万台

事業領域②

中古車オークション会場、入札会

出品 20万台 仕入 115万台

事業領域③

中古車販売店

輸出用落札 85万台 輸出 5万台 小売 10万台 小売 130万台 小売 90万台

海外市場

買いたい人
(海外)

買いたい人
(国内)

事業領域①

Data Line PRO、自動車メーカー向け基本価格データ
オークション落札価格・小売価格などの相場データを提供

Data Line 査定、e-satei

法人向けに中古車査定価格算出システムを提供

事業領域②

Goo-net 自動車流通、自動車流通新聞

自動車関連事業者向けに流通市場の動向をweb・紙面にて提供

事業領域③

Gooシリーズ(PC/モバイル/情報誌)

欲しいクルマを検索・見積り

MOTOR GATE(Goo-netバックグラウンドシステム)

在庫管理、顧客管理ツール等を提供

Goo鑑定

第三者機関が鑑定した車両状態を開示

Goo-net Exchange

販売店の中古車輸出をサポート

※(株)矢野経済研究所『中古車流通総覧 2012年版』を基に作成(2011年における中古車流通フロー)
※業販市場と中古車販売店の仕入販売台数は在庫入替用の仕入販売台数を除く。 ※解体市場データ除く。

情報誌事業

情報登録・掲載料 (1)

課金体系: 1ページ当たりの広告掲載料

* 基本広告掲載料 (情報誌・PC・モバイルのセット販売)

情報提供料

情報誌の販売
モバイル課金



例) Goo首都圏版
 ページ単価: 約7.8万円 ∴ 月2回広告掲載した場合(1P×2回)の基本広告掲載料: 約15万円
 ※平均顧客単価/月: 約23万円(2013年3月期実績)



MOTOR GATEの主な機能		
販売管理機能 ・新規車両登録 ・在庫車両管理 ・Goo-net掲載管理 ・問合せ管理	データ分析機能 ・書類作成機能 ・各種アクセス解析 ・POP作成 ・見積書作成 ・登録申請書類作成 ・陸送手配書類作成	顧客管理機能 ・顧客情報管理 ・商談管理 ・車検情報管理 ・任意保険管理 ・顧客車両管理等

MOTOR GATE : Goo&Goo-netのバックグラウンドシステム (中古車販売店マネジメントシステム)

IT事業①

情報登録・掲載料 (2)

Goo-netのインターネットオプション (MOTOR GATE)

■ ユーザーからの安心・信頼を高めるサービスを拡充し、競合との差別化を図る

Goo鑑定(鑑定書付き車両)



車両状態情報の開示

Goo鑑定の概要と図解(一例)

- フロントガラスの傷びれなどによるキズをチェック
- ハンドルやダッシュボード、メーター類のチェック 同時に異臭やシートの汚れ、破れなども確認
- エンジンルームのオイルや冷却水の漏れのチェックに加え、異音なども確認
- アイドリング時やアクセル踏にエンジンに力がかかるなどの異音が無いか確認
- トランスミッションの駆動ショックの確認
- 音響の修復歴を確認 修復済みの場合、その程度もチェック
- ドライバーに修復跡が無いかを確認
- パワーステアリングが正常動作するかを確認
- リアトランクの下をチェックし、修理跡や塗りが無いかを確認
- 外板のキズや塗装の状態を確認
- マフラーの状態を確認 異音等の有無や排気量をチェック
- ホイールのキズやタイヤの溝をチェック
- 外板に隠れた腐食部分も確認

Goo鑑定3つのポイント

Goo鑑定のポイント ①

第三者の鑑定師がチェック!

第三者の鑑定師(日本自動車査定協会(JAVA))の鑑定師が自由査定。プロの目・手でチェックします。

公正!

Goo鑑定のポイント ②

外装・内装・機関・修復歴について評価

外装・内装・機関・修復歴の4項目について鑑定を行っています。写真からでは判別が難しい部分も入念にチェックしています。

納得!

Goo鑑定のポイント ③

鑑定書付き

鑑定した内容、外装・内装・修復歴の4項目について、詳細な鑑定書が作成されます。中古車購入者が安心して購入できるように配慮されています。

分かりやすい!



ステップ ① Goo鑑定車一覧ページ



一覧へ ショウ・Read 鑑定車の車両詳細、Goo鑑定車の表示が可能です。

ステップ ② Goo鑑定車詳細ページ



詳細ページからRead 鑑定書(サンプル)を見ることが出来ます。

ステップ ③ Goo鑑定書ページ



Goo鑑定の拡販により、ユーザーがより安心・信頼してクルマ選びが出来る環境を整備する

※ 本資料に記載の金額は、全て百万円以下を切り捨てて表示しております。

■ 将来予測について

本資料で提供されているIR情報には、将来の見通しに関する情報が含まれています。これら歴史的事実以外の情報は、当社グループが属する業界の競争、市場、諸制度に係るリスクや不確実性による影響を受ける可能性があります。その結果、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び推測に基づく見込みは、将来における実際の成果及び業績とは異なる場合があります。ご承知おきください。

■ お問い合わせ先

株式会社プロトコーポレーション

名古屋市中区葵一丁目23番14号

TEL 052-934-1519 FAX 052-934-1750

<http://www.proto-g.co.jp/>

4298ir@proto-g.co.jp

IR担当／経営企画室 鈴木